

遺産No. 11-02-01  
佐鎮

★ 11 佐世保要塞及び関連施設

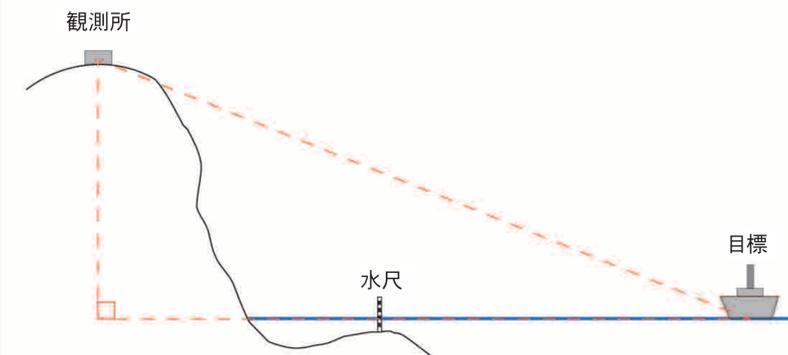
# 旧陸軍佐世保要塞丸出山堡塁観測所跡

Remains of the Imperial Japanese Army Sasebo Fortress  
Marude-Yama Battery Observatory

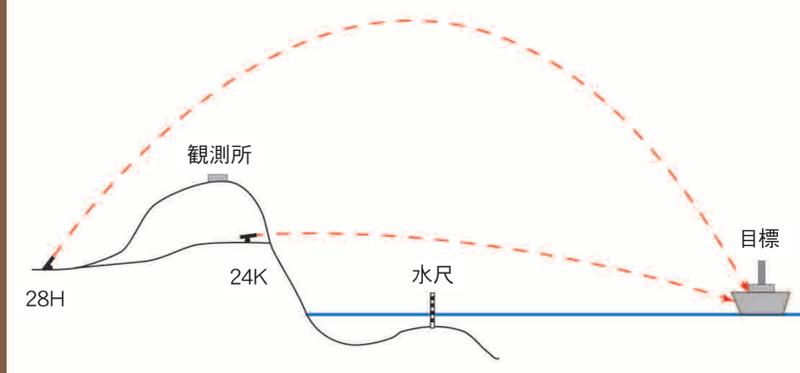
この施設は丸出山堡塁に設置された28cm榴弾砲の砲戦指揮のために建設されたもので、ここに装備された測遠機で敵艦との距離や着弾地点を観測して砲台に連絡するものであった。基本的に観測所の標高と目標の水面の高さを底辺とする直角三角形を形作ることによって目標の正確な位置を求めるものであった（垂直基線式という）。観測所の周囲に周濠が掘られており、海から観測兵の移動が見えないように工夫されている。この観測所には装甲掩蓋が残されているが、日本国内では丸出山と由良要塞友ヶ島第一砲台（和歌山県和歌山市）に残されているのみである。

This facility was built to control the shooting of 28-cm howitzers equipped in the Marude-yama battery by informing the battery of the distance to enemy vessels and impact points measured with a range finder. Basically, the exact location could be measured by forming a right-angled triangle with a base line connecting the altitude of the observatory and the sea level (perpendicular base line method). Trenches were dug around the facility so that observing soldiers could not be seen from the sea. This observatory has an armored overhead cover which can be seen only here and at the 1st Tomoga-shima battery in Yura Fortress (Wakayama city, Wakayama prefecture).

垂直基線式測距の概念図



榴弾砲とカノン砲の弾道の違い



Hは榴弾砲、Kはカノン砲を表す。カノン砲は直線に近い弾道で敵艦の舷側を撃抜くことを目的とし、榴弾砲は山なりの弾道で敵艦の上部構造物の破壊と人員の殺傷を目的とする。明治時代の艦艇は舷側に比べて上部の防御が弱いため、榴弾砲での射撃が極めて有効だった。反面弾丸が到達するまでに時間がかかるため、命中率は低い傾向にある。

日本遺産

鎮守府

横須賀・呉・佐世保・舞鶴  
日本近代化の躍動を体感できるまち

